

2017年9月16日

『隠州視聴合記』と『改正日本輿地路程全図』における竹島の記述・描写に関する私見 補遺3

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

このついでに、林子平『三国通覧図説』に付された「三国通覧輿地路程全図」の中の「竹島」記述に関する私見についても述べておきたい。

『三国通覧図説』には天明5年（1785）の刊本があり、《早稲田大学古典籍総合データベース》でみることができる。朝鮮、琉球などの日本の近隣地域の地理解説であるが、その後に「三国通覧輿地路程全図」、「朝鮮図」、「琉球図」、「蝦夷図」、「無人島之図」が付されている。「三国通覧輿地路程全図」は日本、朝鮮、琉球、蝦夷、小笠原諸島のおおまかな地理的構成を描いた地図である。日本に関しては、赤水の『改正日本輿地路程全図』を参照したことが序に記されている。この図には、「竹島」が書き込まれ、その横に「朝鮮ノ持也」、「此島ヨリ隠州ヲ望。又朝鮮ヲモ見ル」と記されている。

結論的にいうと、林子平の竹島・鬱陵島方面の海域認識は、混乱した曖昧なものである。以下、その旨を説明したい。

- 1、江戸時代の「竹島」が鬱陵島を指すことは言うまでもない。ところが、「三国通覧輿地路程全図」には、「竹島」のほか、朝鮮半島の東側に明らかに鬱陵島とみなしうる島が描かれている。「三国通覧輿地路程全図」には島名が記されていないが、「朝鮮図」では、この島が鬱陵島であることが明記されている。林子平は、「竹島」と鬱陵島の関係性を正確に理解していなかったようである。
- 2、次に「此島ヨリ隠州ヲ望。又朝鮮ヲモ見ル」という文言である。そもそも「竹島」（今の鬱陵島）から隠岐島が見えるのか否か私は知らないが、この文言が赤水図に付された「見高麗猶雲州望隠州」に由来するとすれば、相当の誤解・曲解、あるいは勝手な想像の読み込みである。あるいは、赤水の付記から雲州を抜いて、「見高麗猶望隠州」とでも読んだのであろうか？
- 3、「三国通覧輿地路程全図」には「竹島」の横に附属島のような小島が描かれている。これは何なのか。情報が不足しているため確たる事を言うのは難しい。以下は全くの推論である。林子平が、赤水図に基づいてこの海域を描いたのだとすれば、この小島が「松島」（今の竹島）をデフォルメして描いたものである可能性も考えられよう。もし、そうだとすると、林子平が、「竹島」（今の鬱陵島）と「松島」（今の竹島）の距離感を理解していなかったことを示しているとも言えよう。それは、林子平が『隠州視聴合記』を読んでいなかったことを示すものであるとの推測も成り立つかもしれない。『隠州視

『聴合記』には、「松島」から「竹島」まで船で一日かかることが記されている。赤水は、その距離感を踏まえて二つの島を描いているのだが、林子平は、「竹島」「松島」を勝手に大小の二子島のように想像してしまったのではあるまいか。

- 4、林子平が、この海域について得ていた確かな知識は、17世紀末に「竹島」への渡航が禁止されたことのみであったようである。「竹島」に「朝鮮ノ持也」という注記を付したのは、その知識によるものだろう。ここで注意すべきは、この「三国通覽輿地路程全図」上に描かれた「竹島」が「朝鮮図」には描かれていないことである。もちろんフレームの都合で入りきらなかった可能性もあるが、そうだとすると林子平が是が非でも「朝鮮図」のなかにそれを描かねばならないとは考えなかったことは確かであろう。やや穿ちすぎかもしれないが、「朝鮮之持也」の「持」は所持・所有というより受け持ち程度の意味を込めたものではあるまいか。